

【エンジョイ高知スポーツフェスティバルについて】

知事： いずれの案もよく考えられていますね。それぞれかなりいろんな可能性があるんじゃないかというふうに思いました。ところでなぜトライアスロン坂本龍馬杯にしようと思ったんですか。

生徒： スポーツをしながら、ふと見た景色がきれいだったりして、「ああ、高知のここすごいな」みたいに思っていただけだと。

知事： そうですね。ちなみによく何とかマラソンってあるでしょう。四万十川でも毎年マラソンをやっているんですよ。マラソンって実はすごいらしいです。どういうことかと言うと、マラソンやる人は、全国のいろんなマラソン大会を行って回るらしいです。トライアスロンなんかでもそう。だから、リピーター、固定ファンが着くことによって、県外の観光客の皆さんが来てくれるということもあるかもしれません。実は、ポスト龍馬博に向けて、龍馬マラソンはどうだろうというのが、一つの有力な候補になっているんですけど、トライアスロンで、こんなふうに高知のいろんなところを見てもらったりするのも楽しいかもしれませんね。

いずれにしても、このトライアスロン龍馬杯、龍馬ママチャリラリー、どちらもなかなか面白いと思いました。自然をずっと見ていっていただきながら、単に競うだけじゃなくて、途中、途中にいろんな観光地を入れて、さらにママチャリラリーのほうは体験をいろいろやっていくということでもんね。これは一つ、グッドアイデアだと思います。来年に向けていろんなアイデアを募集しているところなので、もしかしたら参考にさせていただくかもしれません。

でも、大人が理屈っぽいことを言うような感じになって恐縮ですけど、是非こういうことを考えてみて欲しいと思います。これに多くの人を引き込んでいくためには、どういうことをしなければならないでしょうか？ これを本当に実現していくためには、例えばどういう人のどういう協力があるだろうかというのも是非、考えてみてください。面白いアイデアだと思うけど、それを実現していく過程は、大変なんです。

例えば、桂浜から沖に向かって1.5キロのブイまで泳いで帰ってくるといっても、桂浜は遊泳禁止区域でしょう？ あそこで1.5キロ先のブイまで行って帰ってくるができるのか。どうもこれは警察が許してくれそうにありません。それなら次の候補地はどこにする？ ということを考えなくてはいけませんよね。このトライアスロン、ママチャリラリーを本当に実現するためにはどうすればいいかっていうことを1個、1個練っていく過程で、その難しさがたくさん出てくると思います。それを是非考えてみてください。

これと同じような苦勞を大人でもするんですよ。京都に坂本龍馬さんと中岡慎太郎さんのお墓があるでしょう。その京都の一番の繁華街の河原町、高知でいうと帯屋町みたいところで、よさこいをやらないかという計画があります。元々、龍馬さんのお墓の前の霊山神社の境内でやっていたのですが、高知のよさこいの一番のよさは練

りをやることじゃないですか。練ってずっと行列になって動いていくこと。あれを是非京都の人にも見てもらい、高知県の強力なPRにしたいと考えています。けれど、商店街を練り歩くとすると、河原町の通行を止めないといけません。警察がこれを許してくれるか、もっと言えば、これで通行上の障害が起きないかどうかということが一番のネックになっています。

アイデアはすごく面白いと思う。けれどいろんな関係者を、巻き込んでいかなきゃいけません。いろんなことを考えてみてください。私もスポーツ系でこういうイベントを是非考えさせてもらいたいと思います。ありがとうございました。